

「平和を創り出す」

今日も、能登半島に所在する教会では、礼拝が守られているかと思います。中部教区による公式報告で、輪島市にある輪島教会は、礼拝堂が使えなくなったことを受けて、牧師館を整えて礼拝を行うと言っていました。未だ断水が続き、余震も止まず、昨日朝早く震度5強を観測したところです。でも、今日も礼拝が、そこで行われていると思います。

コロナ禍の始まった時も、そうでしたが、こんな風に、明らかに私たちの生活を不安にさせる状況にあって、どんな福音が届けられていると言うのでしょうか。どんな礼拝を行うべきなのでしょう。か。「いかに楽しいことでしょうか、主に感謝を捧げることは」と言う、今日の御言葉の冒頭部分を、どんな気持ちで受け取ればいいのでしょうか。

これは試みなのでしょうか。災害の報せを聴いて、なお神様を信じられるかどうかを試すための試練なのでしょうか。もし、仮に、これが私たちの信仰心を試すための試練だとして、この地震や津波で命を失った人たちは、神様の御心による試練のために、私たちの信仰心を試すために、死んでいった、ということなのでしょうか。あるいは、この地震や津波は、神様の裁きなのでしょうか。罪を重ね、それを反省しなかったことへの罰なのでしょうか。もし、仮に、これが裁きによる罰だとして、この地震や津波で命を失った人たちは、神様の御心による裁きのために、与えられた罰のために、死んでいった、ということなのでしょうか。

試みや裁きや罰という言葉を用いて、地震を説明することは非常に簡単です。津波の起こった原因を語ることも非常に簡単です。「これは神の試みである」「これは裁きである」「罰である」。東日本大震災の時も、コロナ禍の時も、そうした短絡的な言説が流行しました。そして、お決まりの言

葉が続きます。「だから、悔い改めなさい」と。「だから、主なる神に立ち帰りなさい」と。古今東西、自然災害は、短絡的な宣教計画のもとで、容易く「悔い改め」が必要であることの根拠として、用いられてきました。人が、神様の御業を、都合良く利用して、目先の安心や納得のために勝手に解釈を重ねてきた、ということです。

私たちは、全知全能なる神様を信じる、信仰者です。この地震や津波について「これは、神様の御業の外の出来事です」とは言えません。しかし、一方で、この地震や津波について「神様の試みであり、裁きであり、罰である」とも言えません。何故なら、私たちは神様の御心のすべてを知っている訳ではないからです。そして、私たちの神様は、たとえ自然災害という形ではなくとも、人の命を天に召される方であると、私たちは知っています。形あるもの、命あるものは、いつか失われていきます。若くて天に召される子どもがいます。寿命近くに事故で亡くなる方もいます。そういうことが起こるのが、私たちの人生であり、神様の導かれる歴史であり、世界であります。否定したくとも、そういう世界であることは、受け入れざるを得ません。そして、何故、神様がそのような世界にされたのか、それは、少なくとも私には理解できません。不思議の一言です。謎でしかありません。

ただ、今日までの歴史の積み重ねの中で、幾度も地震がありました。何度も津波がありました。嵐も、干ばつも、戦争も、疫病も、飢饉もありました。その都度、私たちの信仰の先達は、沢山悲しみ、沢山嘆いたと思います。叫んだり、恨んだりしたと思います。でも、自然災害を起こすこともある神様の、もう一つの側面を忘れずに、祈ることを続けてきました。慈しみと励ましと、愛と癒しに満ちた神様のことを信じて、祈ってきました。今の私たちに必要な態度も、そうだと思います。この世界の全てを支配される神様が行われた御業を前に困ったり、怯えたりしつつ、なお、信じて祈るのです。決して、神様の御業の意味を分かりもしないのに理解した気にならず、安易に「試

み」とか「裁き」とか「罰」とか言わず、ただただ目の前の現実には悲しさと痛みを受け止めて、「どうか、神様、癒し慰めてください」と祈ること。それが、人の分であるというものです。

しかし、あと、もう一つ、私たちにはできることがあります。それは、神様に向かって訴えることです。物分かり良く自然災害を受け入れるのではなく、自然災害など無かったかのように願掛けするのではなく、型通りに賛美や感謝の祈りを捧げ続けるのではなく、「何故、神様、こんなことをなさったんですか」と。「これには何か意味があるのですか」と。そして、「召された人の平安を守ってくれますよね」と、「生き延びた人の幸いを守ってくれますよね」と。神様に詰め寄り、問い掛け、訴えるのです。あなたに愛された一人一人が困り、恐怖し、疑いを抱えている状況を、絶対にどうにかしてくださいね、と。私たちは祈らないといけない。決して、「主の御名を賛美します」と、思考停止になって言い続けることが御心ではないと、私は思っています。

私たちの神様は、私たちの心からの祈りと、偽りのない願いに、応えてくださる方です。私たちが、真剣に祈り、熟慮して願うことに、神様は必ず耳を傾けてくださいます。私たちは、神様の御計画を否定したり、御業を妨げたりすることはできません。けれど、祈りを通して、対話し、御心に訴えることはできます。詩編全編が、喜怒哀楽を豊かに表現し、忖度なく、遠慮なく、神様に様々な祈りと願いと訴えを捧げている様子に学びつつ、私たちも、私たちの心にある様々な不安や迷いや疑いも含めて、神様にお捧げしたいと思います。

賛美できないことも祈りです。感謝できないことも祈りなのです。人のはらわたを究められる神様に、建前は不要です。その代わり、被災地のために、亡くなった人のために、被災地で不安になっている人のために、そして、私たちのために、心の底から祈るのです。願うのです。どうか、1日も早く平安が取り戻されますように、平和が実現しますように。祈るのです。

祈ることに、どれだけの意味があるのか、と言う人もいるでしょう。いいじゃないですか、祈る

ことで、私自身の心が落ち着き、他の人に相応しい形で親切にしたり、確実に善意を配れるようになったりするなら、祈ることは素晴らしいことです。私たちが落ち着きを取り戻し、冷静になり、被災地のことを丁寧に、合理的に考えられるようになることは重要です。今、能登半島は人や車の往来を制限して、最大限に高い効率で救助支援活動を行おうとしているところです。「誰でも、とりあえず行動を」という次元の話ではありません。私たちは、祈りつつ、相応しい援助の方法を模索し、時機が巡り来るのを待って、被災された方々を最も良い形で助けられるように、祈りつつ考えるのです。

今、誰よりも平和を求めている人のために、平和を創り出すことができるように、祈ること、考えること、行動すること。私たちにもできる平和の業を続けて参りましょう。

お祈りを致します。

神様。不可思議な、あなたの御心によって、私たちは動揺を隠せない年明けを過ごしています。私たちは、あなたを信じて忘れることはありません。しかし、同時に、あなたを信じるからこそ、この不安な思いや、悲しい気持ちを忘れることもできません。どうか、神様、平和の主である、あなたが、愛と慈しみを示して、困難の中にある方、不安の中にある方、助けを必要としている方を顧みて、必要な癒しと慰めをお与えください。被災地で懸命に働く人たちのことを顧みて、十分な休息と励ましをお与えください。また、被災地のことを憶えて、祈りを捧げている一人ひとりのことを顧みて、安心と確信をお与えください。あなたの御心を尋ね求めつつ、なお、掴み取れないことを受け入れて、あなたの御心に委ねて祈ることができますように。信仰を持つ私たち一人ひとりのことを、しっかりと支え導いてください。

このお祈りを、救い主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

1月の誕生日の方を憶えて

聖書：詩編 71 編 17～19 節

神よ、わたしの若いときから／あなた御自身が常に教えてくださるので／今に至るまでわたしは
／驚くべき御業を語り伝えて来ました。わたしが老いて白髪になっても／神よ、どうか捨て去らな
いでください。御腕の業を、力強い御業を／来るべき世代に語り伝えさせてください。神よ、恵み
の御業は高い天に広がっています。あなたはすぐれた御業を行われました。神よ、誰があなたに並
びえましょう。あなたは多くの災いと苦しみを／わたしに思い知らせられましたが／再び命を得さ
せてくださるでしょう。地の深い淵から／再び引き上げてくださるでしょう。ひるがえって、わた
しを力づけ／すぐれて大いなるものとしてくださるでしょう。

神様。私たちは、新しい年の幕開けを祝うこの1月にあなたによって尊い命を与えられ、生まれ
て来られた誕生者の方々を憶えて祈りを合わせています。今、ここにお立ちになっている方々の人
生を振り返れば、山あり谷ありの道を歩んで来られただろうと思います。その深みにある時も、ま
た、その頂きにある時も、いつもあなたが隣にいて、支え導いてくださったのだと信じます。それ
ぞれの誕生の日から始まる新しい一巡りも、どうかあなたが傍にいて、その喜怒哀楽に寄り添い、
時に応じた相応しい御業を示してください。あなたに連なる人生に、大きな喜びと幸いを、どうか
お与えください。あなたと共にいて良かったと思える人生を、どうかお示してください。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。